

2. 予算の概要

<>の数値は、前年度との比較

当初予算の全体像

◆ **一般会計の予算額** 470億30百万円 <+51億10百万円、+12.2%>
北大阪急行線延伸整備工事の着手など普通建設事業費の増加、扶助費など社会保障関係費の増加等により予算規模は増加

◆ **全会計の予算額** 1,339億7百万円 <▲47億57百万円、▲3.4%>
(特別会計・企業会計を含む)
競艇事業会計において、SG競走(グランプリ)の非開催年にあたるため、予算規模が縮小

◆ 一般会計の主な歳入の状況

・ **市税収入** 229億57百万円 <+3億52百万円、+1.6%>
箕面森町・彩都地区の新築家屋の増加による固定資産税の増収や開発事業等緑化負担税の新設などにより、市税収入全体で約3億52百万円の増加

・ **国庫支出金** 99億50百万円 <+23億29百万円、+30.6%>
北大阪急行線延伸整備工事の着手、扶助費をはじめ社会保障関係費の増加などにより、国庫支出金は約23億29百万円の増加

・ **市債** 31億72百万円 <+5億64百万円、+21.6%>
北大阪急行線延伸整備工事の着手、中小学校増築などによる市債の増加

・ **競艇事業会計繰入金** 6億円 <±0億円、±0.0%>
収益向上策の強化などにより、前年度と同額の6億円の繰入金を見込む。
約1億87百万円を北大阪急行線延伸整備に活用、約8百万円を北大阪急行線延伸に係る市債の利子償還分に活用、約4億5百万円を『北大阪急行南北線延伸整備基金』へ積立

◆ 一般会計の主な歳出の状況

・ **扶助費** 108億34百万円 <+5億61百万円、+5.5%>
医療扶助の増による生活保護費の増加、障害児通所サービス受給者の増加など

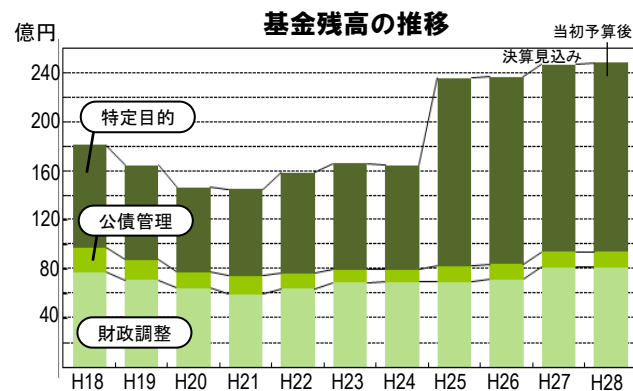
・ **普通建設事業費(施設整備工事など)** 84億31百万円 <+42億5百万円、+99.5%>
北大阪急行線延伸整備工事の着手や定員増に向けた民間保育所の整備など

・ **積立金** 4億65百万円 <▲5億7百万円、▲52.2%>
『北大阪急行南北線延伸整備基金』、『みどり推進基金』への積立など

収支バランスの状況

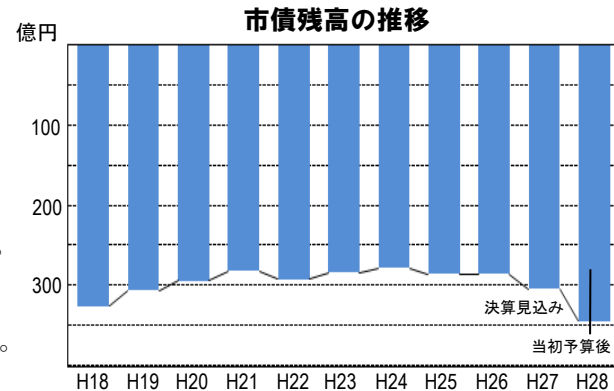
◆ **基金残高** (普通会計ベース) 248億70百万円 <+1億29百万円、+0.5%>

取り崩しを必要最小限度の3億37百万円にとどめる一方、『北大阪急行南北線延伸整備基金』、『みどり推進基金』などへの積立を行った結果、基金残高は1億29百万円増加した。(昨年同様、財政調整基金の取り崩しはしない。)



◆ **市債残高** (普通会計ベース) 343億15百万円 <+39億7百万円、+12.8%>

約19億96百万円返済する一方、北大阪急行線延伸及び周辺まちづくりの用地取得に伴い、施設整備事業債などを約59億2百万円発行した結果、市債残高は約39億7百万円増加した。なお、臨時財政対策債は限度額まで全額発行せず、10億円の発行に抑えている。



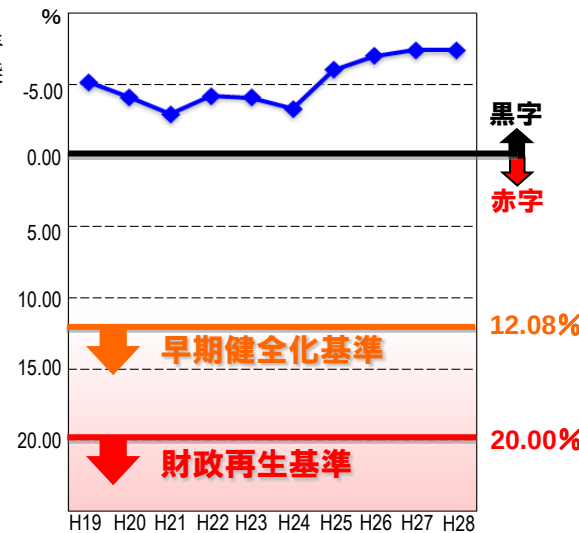
健全化判断比率の状況

平成27年度以前は決算(見込み)、平成28年度は当初予算後の数値による試算。いずれも数値が小さいほど健全。早期健全化基準を超えた団体は、破たん一歩手前の状況で、早期に財政の立て直しが必要。(イエローカード) 財政再生基準を超えた団体は、破たん状態とみなされ、国の関与のもと厳しい財政の再建が必要。(レッドカード)

◆ 実質赤字比率

一般会計の赤字の程度で、財政運営の深刻度を示す。

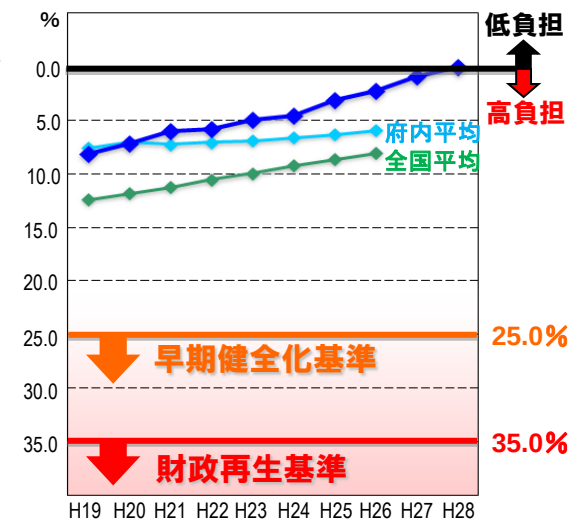
黒字



◆ 実質公債費比率

一般会計の市債の返済額などの大きさで、資金繰りの危険度を示す。

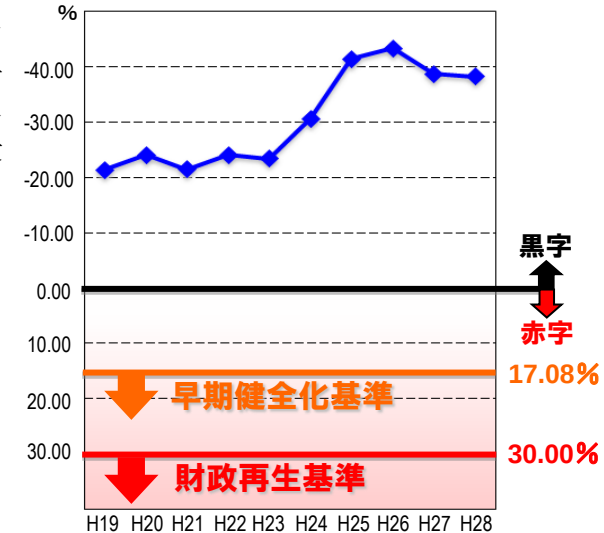
負担軽減



◆ 連結実質赤字比率

一般会計の他、すべての特別会計、企業会計の赤字や黒字を合算した赤字の程度で、財政運営の深刻度を示す。

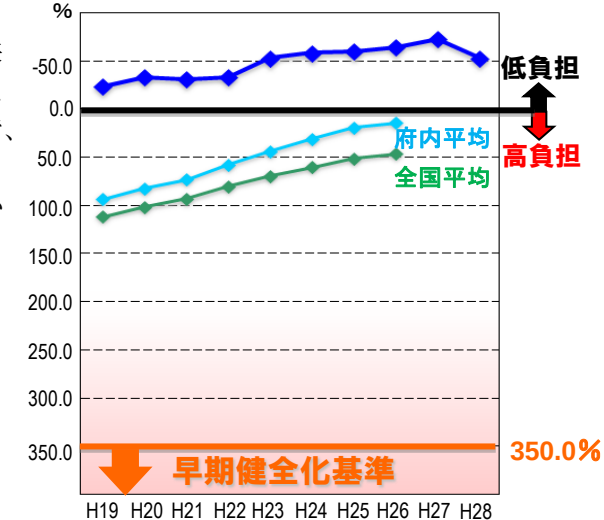
黒字



◆ 将来負担比率

一般会計の市債や将来支払う可能性のある負担などの残高の程度で、将来の財政を圧迫する可能性が高いかどうかを示す。

低負担



◆ **経常収支比率** 94.3% <▲0.2ポイント>

社会保障関係費が増加したものの、退職者数の減や箕面森町・彩都の新築家屋の増に伴う市税の増収などにより、昨年度から0.2ポイント改善。今回で6年連続の改善、8年連続の経常黒字(経常収支比率100%以下)の達成となる。

